

学校教育目標	自ら学び、友達や社会とかかわり合いながら、ともに新しい社会を創ろうとする子ども			
	○自ら学ぶ子ども【知】	主体的に考え、共に学び合う力を育みます。		
	○心豊かな子ども【徳】	自他ともに尊重し、たくましく生きる力を育みます。		
	○心身ともに健康な子ども【体】	自らの健康を保持増進しようとする力を育みます。		
	○社会に参画する子ども【公】	社会の一員として、他者と協働する力を育みます。		
	○変化する社会を生きる子ども【開】	広い視野をもち、未来に向けて挑戦する力を育みます。		
学校概要	創立 112 周年	学校長 鳥飼 信幸	副校長 坂入 亮太	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 544 人	主な関係校: 西中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
	西前小学校 西中学校 (併設型小中学校)	<p>自ら学び、友達や社会とかかわり合いながら、ともに新しい社会を創ろうとする子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9年間一貫した教育を推進するために中学校と連携、協働して教育課程の編成・検証を行うと共に、「主体的に考え、判断し、学び合う子どもの育成」を研究テーマとして設定し、各教科等においてテーマを意識した授業を展開する。 ・中学生とふれあう活動を大切に、9年間を見通した教育課程の編成、学校行事等の充実を目指す。 ・児童会、生徒会の連携を図りながら基本的な生活習慣の形成、よりよい人間関係の構築に向けて指導する。 ・小中一貫教育の行事や授業などを通して、教職員間における「授業観」「児童生徒理解観」「評価観」等、「観」の共有を図っていく。

中期取組目標	<p>○児童一人ひとりを大切にされた活力と魅力に溢れた学校づくり、9年間を見通して社会の変化に対応した生きる力の育成を目指した学校づくりを、「チーム西前」で一丸となって進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西中学校との連携、協働によって、主体的に考え、判断し、学び合う子どもの育成を目指した小中一貫カリキュラムの編成・検証を基にした授業づくりに取り組みます。 ・一人ひとりのよさを生かし、「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる学級・学年・学校経営に取り組みます。 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、言語活動を大切にしながら学力の向上を目指すと共に、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活を送ることができるようにします。 ・地域の教育力を生かした特色ある学校づくりを進め、豊かな人間関係を築き、主体的に社会創りに参画する力を育てられるようにします。 ・子どもたち及び社会の範となり学び合い、高め合う教職員となり、チーム力を一層高め、信頼される教職員集団を目指します。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①「主体的に考え、判断し、学び合う子ども」の育成に向け、学び合う姿の具体像を意識した授業づくりを目指す。②ICTを活用した授業に向けての研修・授業研究を行い、実践事例を集め、カリとの関連を検討する。③小中合同研究会等を活用し、学びの連携や授業改善を図る。
豊かな心	①自ら進んで挨拶する姿を目指して、学年に応じた指導を行う。②ふれあい活動・異学年交流を充実させ、よりよい人間関係の基盤を培う。③地域との関わりを大切に学習を工夫する。④道徳の授業を全教育活動の中で実践し、年に1度は公開する。⑤発達段階にあった人権学習を実施する。
健やかな体	①養護教諭、栄養教諭、学校医と連携し、本校の健康課題について学年に応じて指導を工夫する。②一校一実践運動に「長縄」を取り上げるとともに、各学年でスポーツ集会を実施する等、年間を通して体力の向上を図る。③歯磨きや手洗いなどの継続を推進し、病気予防の意識を高める。
よりよい人間関係づくりと社会参画	①縦割り活動を通して、異年齢集団におけるよりよい人間関係を深める。②地域で体験的に学ぶ機会を設け、個々の自己有用感を高める学習を展開する。③主体的に学び続ける意欲をもつために西中との学びの連携を図る。キャリアパスポートを活用し、9年間を通じた自分づくり教育を推進する。
児童生徒指導と特別支援教育	①児童に寄り添い、よさを認め、前向きになる言葉がけをして一人ひとりを大切にしていく。②「にしまえっ子の約束」を教職員、児童、保護者と共有し、共通理解のもとで児童指導にあたる。③情報を共有し、連携して児童指導にあたる。④YPを活用し、客観的な資料も参考にしながら児童理解を深める
地域連携 学校運営協議会	①学校運営協議会や学校説明会、学校だより、HP等で学校経営方針、日々の教育活動等を具体的に発信していく。学校評価アンケート等で挙げられた意見を、学校経営に活かす。②地域の特徴や材を生かした学習を計画し、学びを広げたり、愛着を深めたりすることができるようにする。
安全に関する 教育と安全管理	①より実践的な訓練を想定した避難訓練を計画的に行い、チェックと見直しを図る。②小中連携の引き渡し訓練を継続し、児童・生徒の安全確保と保護者や地域との連携を円滑に行えるようにする。③消防、警察と連携した研修を実施し、安全確保の確認と実践力の向上を図る。
幼保小連携	①近隣の園の園児との交流を通して、人と関わる力、思いやりの心を育てる。②授業・保育参観などを通して相互理解を深める。また、新1年生の学級編成に際しては、担当者が園を直接訪問したり、交流の際に話を聞いたりしてきめ細かい情報交換をし、スムーズな接続ができるようにする。
いじめへの対応	①「いじめ防止基本方針」を学校の柱として位置づけ、未然防止・早期発見・実態把握・対応方針を軸に、組織的・計画的かつ迅速に取り組む。月1回のいじめ防止委員会で情報を共有し、組織的、継続的に支援体制をとる。②いじめアンケートを意図的・計画的に行い、実態把握に努める。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①教師力の向上を図る為、教職員経験年数5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、メンターリーダーを中心に月1回の活動を行う。②学校の実態や教育改革の内容を受け、適時必要な研修を計画・実施していく。③校内全体のICT環境整備を行い、情報機器の活用を推進する。

